

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171300163		
法人名	有限会社 北のゆめ		
事業所名	グループホーム北のゆめ (ユニット1)		
所在地	北広島市稲穂町東10丁目4-17		
自己評価作成日	平成24年9月1日	評価結果市町村受理日	平成24年11月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2011.022.kani=true&JigyosyoCd=0171300163-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成24年9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事～国産素材にこだわり、季節に配慮した食事を提供するようにしている。
 看取り～職員全員が理解を深める為に、定期的に研修を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR北広島駅から徒歩15分、バス停近くの閑静な地にあり、東側一面には田園地帯が広がり遠くには山々が見渡せ交通の便、環境に恵まれている。1・2階の各ユニットが高齢者用マンションと廊下でつながっている。経営者は長年看護師として働いた経験を生かして自分が入りたいグループホームを作ろうと8年前に開設した。介護度が高い1階には日中に職員4人を配置し支援している。職員は20歳から60歳代で、お互い連携を蜜にして利用者のそれぞれのニーズに添えている。過去に6人の看取りを経験しており、家族や24時間対応の医師、職員の連携の下で、看取りに対応できる信頼できる体制ができています。8月のホーム焼肉会には家族多数が参加し、準備や焼き方を手伝い利用者と一緒に楽しいひと時を過ごした。毎年、家族の1人を幹事として家族会を開催し、互いに意見交換をして運営に反映させている。利用者はできる範囲で盛り付けなどをし、食卓には地元で取れた旬の野菜が上がり、職員全員と一緒に食卓を囲み会話を交わしながら食事を楽しんでいる。利用者は職員と一緒に、塗り絵・カラオケ・ジグソーパズルなど思いおもいのことをしながら、楽しく、ゆっくりと、自分らしい時を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をつくり、折にふれて確認しあっている。	理念の「安全第一・楽しく・プライド尊重・ゆっくり・地域とのふれあい」を常に心がけている。12年度の目標を「医療の知識を増やす」「利用者のことをもっとよく知る」として、そのための研修や毎日の実践をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の総会や清掃活動などに参加しており、町内の方々にも事業所のことを認知していただいでおり、挨拶や会話を交わす、など交流ができています。	町内会に加入し総会や清掃活動に職員が参加している。事業所の音楽会に住民が参加することがある。地域住民からトマトなどの差し入れがあり、できるだけ地元で取れた野菜を購入して交流している。	認知症ケアの啓発や、福祉を理解するため、現在職員や運営推進会議参加者に対して行なっている「アルツハイマー病の薬」「グループホームにおけるターミナルケア」など地域住民に役立つ講演会を実施するなど、事業所が有する機能を地域へ提供することを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「気軽にご相談ください」という認知症に関する相談受付の掲示を外部壁面に張り出しており、見学者も広く受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・市職員・消防署・町内会・民生委員が参加して、2か月に一度実施し、話し合いや報告、講演などを行っている。	家族・民生委員・市役所・消防署・町内会が参加して年に6回開催し、外部講師から話を聞くこともある。質問や意見交換を行い、事業所のサービス向上に活かしている。	報告や講演・勉強会にとどまらず、事業所が抱えている悩み解決に知恵を借りるなどの方法で、運営推進会議の活発な話し合いを促し、事業所のサービス向上のため、一段の活用を図ることを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会、運営推進会議等でのいろいろな事について相談や話し合いをしている。	毎月「北のゆめ便り」通信を市に届け、担当職員に事故報告や現況を報告している。グループホーム連絡会に出席した際、また、運営推進会議に市担当者が参加した時にも情報交換を行い連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等に参加し拘束をしないケアについて学び、拘束をしないよう職員全員に徹底している。	拘束をしないケアに関して、職員同士が理解し注意しながら実践している。特に言葉かけによる拘束では、動き出した利用者をすぐに声かけや制止をせずに、安全を確保しながら見守るように心がけている。研修の成果を発表する機会を設けて拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	順番に職員が虐待防止の研修を受けようようにし、意識を高めている。		

グループホーム北のゆめ（ユニット1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ひがし高齢者支援センターの職員を招き講演して頂くなどし、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所された時、ご意見や要望をお聞きしている。投書箱を置き、相談窓口を設けている。	毎年家族会を開催して、家族が悩みをうちあけ、経験や感情を共有し、意見を事業所に伝えられる場になっている。「北のゆめ便り」通信に利用者の様子を手書きして、毎月情報提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務ミーティングで意見交換を行い、カンファレンス等でコミュニケーションを図っている。	代表者や管理者はミーティングやカンファレンスなど様々な機会に職員の意見・提案を聞く機会を設けている。意見を言い易い雰囲気がある。例えば、散歩ができないときも廊下を歩くようにしたらとの提案があり反映された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の働きに応じて昇給や賞与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部より講師を招き、研修会を行ったり、研修会に参加するなどしている。又、ホーム内で独自の勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に参加し、情報交換を行っている。また相互訪問の予定がある。		

グループホーム北のゆめ（ユニット1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人の様子観察を行って情報収集に努め、理解を深めて関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談を行い、いろいろな情報収集に努め、不安や気がかりな事等をゆっくり話しを聞くよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の要望、家族の願いを理解するような支援となるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者1人ひとりを尊重し、生活を共にしている。洗濯物干しやたたみなどを手伝ってもらふ。戦争のころの苦労話など昔話は若い職員が歴史を知るきっかけになっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に利用者の状況や変化を伝え、家族と共に支援するよう努めている。「北のゆめ便り」に利用者の生活ぶりをそれぞれ記載して送付している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	介護度が高くなってきているためコミュニケーションをとることが困難になってきているが、居室に写真、手紙など飾っていただき、昔を思い出すきっかけになっている。。	一時帰宅で外食をしたりお寺に行ったりする利用者を支援している。思い出話や昔話を散歩やコミュニケーションの場で話題にすることで、なじみの人や場所を思い出してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう状況や状態を見て対応するよう努めている。		

グループホーム北のゆめ（ユニット1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了の理由は入院や死亡が主で入院中にはお見舞いに行くなどしている。亡くなられた場合は葬儀に出席するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの性質や好みを日常から把握し、思いに添ったケアができるよう努めている。	散歩や介護の際の会話から利用者の思いを汲み取り、言葉にするのが困難な場合には日常の行動や過去の記録から推察するようにして利用者の意向を第一に考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、又は本人から面談時に情報を収集し、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の関わりの中から観察し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意見を話せる人は本人から、又は家族に来院時に聴くなどし、毎日のカンファレンスやサービス担当者会議で検討して介護計画に反映させている。	家族の要望や医師の情報、カンファレンスや介護記録をもとにケアマネが中心となって、たたき台を作成し、運営者・管理者と共に検討、さらに職員の見解を加えて完成させる。原則として3か月ごとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送り、カンファレンス、個別記録の記入や連絡帳を活用し、職員間の情報共有をしながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態、家族の状況を理解し、サービス内容の検討を重ねて多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事にはボランティアの参加を依頼し、避難訓練では消防署や近隣住民の協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日の状況を看護師に報告し異変事がかかりつけ医に連絡して適切な指示を受けられる。訪問診療があり情報交換している。	かかりつけの眼科医や検査のために病院に行く時に職員が付き添い支援している。提携医が定期的に往診に訪れるが、必要な場合にはいつでも来てもらえる関係がある。	

グループホーム北のゆめ（ユニット1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており状況の報告、相談をして管理されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行ったときに病院側から経過報告等の情報を収集し、早期退院できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて個々の家族と話し合いをし、確認している。状況に応じて担当医に相談している。 マニュアルを作成し看取り時はそれにそったケアプランを作成している。	マニュアルを作成し、看取り介護を実施して看取りの方針を契約時・必要時に本人・家族に説明している。今までに6人を看取っており、職員に看取りへのためらいはない。24時間対応の医師や看護師と連携してチームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や訓練を実施し、又マニュアルを作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの作成、運営推進会議で地域の方々への協力要請、定期的な防災訓練に近隣の方々の参加や協力を得ている。	火災訓練は夜間も想定して年3回、消防署と住民が参加し、実際に職員が消火器を使用して行っている。立地上延焼の恐れは少なく、電気調理器を使うなど火を出さない工夫を徹底している。地域住民を含んだ緊急連絡網を整備している。	地震の対応マニュアルを具体的にまとめて、利用者・職員間で実践し、運営推進会議、地域住民を含めた協力体制を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、言葉掛けや対応に配慮している。マナー講座等に参加するようにしている。	名前で呼び、名前で呼ぶ同意を得ている場合もチャン付けはしない。人生の先輩として常に尊重して接し、全員が互いに言葉かけや対応に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話や表情などから思いや希望をくみ取り支援するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者1人ひとりの状況に合わせた対応ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用する。出来る人は洋服を自分で選んでいただき、天候と季節に合わせた服装が出来るように支援している。		

グループホーム北のゆめ（ユニット1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る人には下ごしらえ(キノコ裂き、もやし の芽芽とり等)や食器拭きなどを一緒に行っている。	利用者はできる限りで調理の準備・食器拭きを行い、職員みんなが食卓について、利用者を気遣いながら一緒に楽しく食事をしている。野菜など地元の食材を利用して献立を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立を作成し食事や水分の摂取量をチェックしユニット内のカンファレンスなどで話し合い、一人ひとりに合った支援が出来るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、一人ひとりの状況に応じて対応している。又、必要に応じて歯科受診を支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握するなどし、利用者1人ひとりの状況に応じて対応している。	記録や観察から適時の排泄パターンを把握し、声かけをして自立排泄を支援している。利用者の尊厳の大前提であることを理解しており、入院でオムツに移行したが、紙パンツに戻った方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その日の体調に合わせ、運動、水分、食事などの便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	流れの中で1人ひとりの気分やタイミングに合わせて入浴をしてもらうよう努めている。	入浴日を週に4回設けて、少なくとも2回入浴できるよう支援している。強制はせず、会話などを通じて工夫をしながら入浴につなげ、楽しい時間になるように心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるよう日中の活動に留意し寝付けな い時には話を聞いたりホットミルクを提供している。 また日中も疲れている様子の時は臥床して頂くなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし常に見ることができるようにしている。又、薬に変更があった時はそれに関する状態の観察などを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりが出来ることに参加している。 (洗濯物干し、洗濯物たたみ、パズル、歌、ぬり絵など)		

グループホーム北のゆめ（ユニット1）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見や紅葉狩り等、季節を楽しんでもらう行事のほか、天気の良い日の散歩を楽しんでもらっている。	平均年齢が90歳となり自力での外出は困難となった。散歩ができない時も屋内で歩行をしたり、日向ぼっこで外気に触れたりしている。5月花見、7月イチゴ狩り、10月に紅葉狩りなど季節を楽しめる場所に車で出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいものがある時は利用者から家族へお願いされており、お金を使いたいという要望は聞かれない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、状態が重くなっており、あまり希望がないが、希望があれば支援する態勢がある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族から頂いた手芸品や花などを飾り、居間の壁には季節に合わせた飾り付けをしている。また生活音が常にあり、食事やお茶の時間などには音楽を流している。	明るい居間・食堂は車椅子がらくらく通れるほど広く、窓からは一面田園と遠くに山々が見渡せる。ウサギやすずきをあしらった月見などの季節の装飾が壁に張られている。温度・湿度にも配慮され、すっきりとした居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペース的にも難しく、また現利用者の状況を考えた時に必要性がないと考えるが、テレビ前のソファなどが個人的に過ごせる空間となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン、部屋の電気以外はすべて利用者本人、家族が用意したものであり、その中には今まで使用していたもの、馴染みの物、写真や手紙などがある。	家族の写真や思い出のぬいぐるみを置くなど利用者・家族の意向にそった居心地良い居室となっている。以前の生活習慣から布団をじかに敷く方がいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下に手すりを付けるなどし、少しでも自立できるよう、かつ安全に配慮している。また「便所」と紙を貼るなど、わかりやすくするための工夫をしている。		